

短歌 技法 ①

年 組 名前 (

短歌に使われる①～⑩の技法を意味・例を参考にして書き入れなさい。

意味

例

①
↓
たとえるときに「ようだ」などを用いない。

例
ガラスの心

②
↓
語順を逆にして意味を強める。

勉強する、国語を。

③
↓
たとえるときに「ようだ」などを用いる。

②①
雲のようだと

④
↓
基本の音数より少なくする。

雲のようだ(六音)が結句(最期の句)だとすると、七音なので一字足りない。

⑤
↓
短歌の基本形式。三十一音をこの順に並べる。

五句三十一音が基本
始めが「初句」(しよく) 終わりが「結句」(けつく)

⑥
↓
文の最期を体言で終わらせることで、感動を強める。

②①
秋の夕暮れ 青いハンカチ

⑦
↓
人でないものを人にとえて表現する技法。

②①
空がほほえむ 大地がどよめく

⑧
↓
似た構成の言葉を並べ、リズムをつくる。

②①
山は大きく、人は小さい。 青い空、白い雲

⑨
↓
基本の音数より多くする。

大地がどよめく(八音)が結句(最期の句)だとすると、七音なので一字余る。

⑩
↓
同じ言葉を繰り返すことで、強調したり、リズム感を生み出す。

②①
ゆっくりと ゆっくりと 右に 右に 右に

10点×10
/ 100

得点

短歌 技法②

年 組 名前 ()

10点×10

短歌に使われる技法と、意味の組み合わせが正しくなるよう
カッコにアッコを書き入れなさい。

意味

ア 倒置法

()

似た構成の言葉を並べ、リズムをつくる。

イ 擬人法

()

たとえるときに「ように」
「ようだ」などを用いない。

ウ 対句

()

短歌の基本形式。
三十一音をこの順に並べる。

エ 字余り

()

同じ言葉を繰り返すことで、
リズム感を生み出す。 強調したり、

オ 反復法

()

基本の音数より多くする。

カ 体言止め

()

たとえるときに「ように」
「ようだ」などを用いる。

キ 直喩

()

人でないものを人にたとえて表現する技法。

ク 字足らず

()

基本の音数より少なくする。

ケ 隠喩

()

語順を逆にして意味を強める。

コ 五・七・五
七・七

()

文の最期を体言で終わらせることで、
感動を強める。

得点 /100

短歌 技法③

年 組 名前 ()

10点×10

短歌に使われる技法と、例の組み合わせが正しくなるよう
カッコにアッコを書き入れなさい。

例

ア 倒置法

()

まるで雲のようだ。

イ 擬人法

()

結句（最期の句）を8音にする。

ウ 対句

()

太陽が吠える。

エ 字余り

()

カバンに入れる、教科書を。

オ 反復法

()

走る、走る、走る。

カ 体言止め

()

三十一音が短歌の基本形式。

キ 直喩

()

結句（最期の句）を6音にする。

ク 字足らず

()

ガラスの心

ケ 隠喩

()

忘れはしない夏の青空。

コ 五・七・五
七・七

()

夜は寒く、昼は暖かい。